

JICA ボランティア 千葉

SV ニュース
第 14 号

平成二十二年 度講演会 第八回 定例会開催

平成二十二年度の公開講演会および定例会が十二月四日（土）午後一時より四時十分まで、千葉市国際交流プラザ（千葉中央ツインビル二号館八階）にて開催されました。会員三十四名、新帰国者三名、及び一般市民の四名が参加しました。



来賓は JICA 千葉デスク 国際協力推進員 明石絵里子氏、千葉県総合企画部国際交流協力

グループ長 中村耕太郎氏が出席されました。第一部の公開講演会では品川会長挨拶に引き続き、JICA 青年海外協力隊事務局次長 北野一人氏が「国際協力力の役割」をテーマに、ごく最近のホットな状況を講演され、日本の

技術支援によって戦禍の中で希望を失った人々に、再び「勇気」や「自信」を蘇らせると言う熱い思いを語られました。



盛況な講演会風景

引き続き千葉県環境研究センター水質環境研究室長の小倉久子氏が「ベトナム国での水環境改善プロジェクト」と題して講演をされました。

昨年は名古屋で COP10 が開催されて、生物多様性が話題になっており、タイミングの良いテーマと成りました。お二人の講演要旨は次頁に掲載しております。

講演会に引き続き第二部の定例会が開催されました。司会の後藤副会長より開会宣言と来賓紹介が行われ、JICA 広尾センター地球ひろ

ば所長貝原孝雄氏（JICA 地球ひろば千葉デスク 明石絵里子氏代読）、千葉県総合企画部国際室国際交流グループ長 中村耕太郎氏の各来賓よりご挨拶を頂きました。



中村耕太郎氏



品川会長

品川会長より現況の概要報告の後、「平成二十二年度通常総会以降の活動概要」を津田事務局長、「国際理解教育について」を横田幹事、「広報活動について」と「ホームページについて」を酒井幹事と白鳥ウエブマスターから現状と今後の方針を報告しました。

質疑応答のあとに、津田事務局長より新帰国者の紹介があり坂出直哉氏、中山明子氏、須郷隆雄氏（欠席）、濱崎 丘氏が紹介されました。

議事書記は大西輝明氏と大久保幹事が担当し、閉会宣言は山本副会長が行いました。定例会終了後は「美弥和」にて懇親会を行ない盛会でした。



「最近の若者は内向きだ」と言われる。現に若い世代の海外渡航は減り、留学する学生も減っている。

社員が海外赴任を望まないうため頭を抱える会社もある。それでは単に海外志向が強ければ内向きではないと言えるのか？ 私はもう少し広い意味で「内向き」と言う言葉をとらえた。

「内向き」を考える

JICA 青年海外協力隊事務局

次長 北野 一人

果たしているとは言えない。ODA 予算が右肩下がりと言う事実もその裏づけではないだろうか？ また国民の抱える不安や期待に応える政治が行われているとも思えない。やもすると政局優先とも取れる国会論議には失望する。若者に限らず日本全体が「内向き」に陥っているのではないのか？ このような社会を創ってきた我々「大人」がまずは反省すべきだろう。

まず一個人を単位として考えた場合、周囲の状況を省みず自分の都合だけで物事を進めてしまうような態度は「内向き」とは言えないだろうか？ 昔「ジコチュー」と呼ばれたような人。言い換えれば公共性に欠け、周囲への配慮に欠ける人である。また他人に對し興味を示さないため、良いコミュニケーションもとれない。更には自分の関心事しか興味を示さない。更にその関心事が非常に狭い範囲に限定されている。即ち好奇心やチャレンジ精神が希薄な人達である。

このように社会の一員として生活するうえで大切な資質に欠ける人達を「内向き」と言うのであれば、まさに JICA ボランティアは正反対の人々と言える。名前さえ聞いたことのない開発途上国に赴き、その社会の

発展のために自分の技術や能力を献身的に捧げる人達。彼らの動機は旺盛な好奇心とチャレンジ精神に裏付けられており、現地の人々との交流には高度なコミュニケーション能力が不可欠である。

若い世代がもつと外に目を向け、自分たちの将来を真剣に考えなければ、日本はどうなってしまうのか？ と本心に心配になる。しかし若者の内向き要因は若者だけの内側にあるのだろうか？ 景気の悪化と二向に良くならない雇用情勢、少子高齢化や社会保障の問題、そして地球規模の環境問題や貧困、紛争問題・・・山積する課題に対して日本は真正面から向き合っているのか？ 敢てチャレンジしているのだろうか？

講演要旨

国際協力の役割

アフガニスタンの現場から

JICA青年海外協力隊事務局
次長 北野 一人氏

アフガニスタンは面積六十五万km²、周囲を中国、パキスタン、イラン、そして中央アジアの国々に囲まれた内陸国です。多民族国家であり政治的にも複雑な様相を呈しています。アフガニスタンの近代史を見直すと正に戦争の歴史で、しっかりと国家の基礎を築く暇がなかったように思えます。五歳未満児死亡率が二百五十七人（千人中）など人間開発指標はどれを取り上げても世界の最低レベルです。

一九九〇年代半ばからタリバンが徐々に勢力を強め、二〇〇一年頃にはほぼアフガニスタン全土を支配していました。この間に国際テロ組織のアルカイダが「九・一一同時多発テロ」の準備を着々と進めていたのです。テロ勃発後、アメリカはテロの首謀者をアルカイダのオサマ・ビン・ラ

ディンと特定し、タリバン政権に引渡しを要求しましたが、タリバン政権はこれを拒否。そして米軍によるアフガニスタン空爆が開始され二ヶ月足らずでアフガニスタンを制圧したのでした。

国際社会は内紛が続いたアフガニスタンに対し「無関心」でいたことが、結果的にテロの温床と化したとの反省から、こぞアフガニスタンに対する支援を表明しました。JICAも二〇〇二年には事務所を開設し、五年も経たないうちに主要援助対象国となりました。来年度には技術協力ベースで六十億円を超えてJICA内でもトップクラスの援助国になるようです。

私がアフガニスタンで常々思い悩んでいたことがあります。それは国の復興を阻止しようとするタリバンが勢力を盛り返し、国内では戦闘やテロ事件が頻発する中で、技術協力が果たす役割とは何だろうか？と言うことでした。厳重な安全対策を施しながらの活動は効率が悪く、また専門家も危険と隣りあわせでは落ち着いて仕事も出来ません。アフガン人からは「日本は軍事面ではなく民生支援だけをやってくれるいい国だ」とよく言われました。確かにアフガン人の気持ちを思いやると外国軍が街の中にたくさんいること

は気分のいいものではありません。

そんな時私はあるアフガン研修員の報告書を目にしました。『自分の人生は常に戦争の連続だった。タリバン時代には女性の権利は奪われ、勉強することが出来なかった。しかし今、技術を身につけて自立できるようになり、将来への希望を持つことが出来た。』アフガニスタンの人々は長い戦いの中で希望や自信を失っていた。しかし技術を身につけることによって将来につながる自信や希望を取り戻したのです。アフガン人がしっかりと技術の身につけ勇気を持ってテロとの戦いに挑むことが、この国の明るい将来を確かなものにするのだと言うことに気づいたので

ベトナム国での水環境改善プロジェクト

千葉県環境研究センター
水質環境研究室長 小倉 久子 博士

ベトナムはパワーを感じさせる国であるが、美味しい屋

台でも調理や洗い物は道端で済ます、世銀のプロジェクトで整備した川岸は綺麗だが川そのものはゴミが溢れ汚いなど、まだまだ環境改善の必要性を感じる。

地方自治体の国際協力

地方自治体に求められる国際協力のニーズは、国の箱物主体の援助に対し、その運用ソフトの取り組みに一番があると思う。千葉県らしい国際協力活動を考えると、県内の人材や資源を活用する、コーディネート役をする、協力団体を育てる、ということになる。

千葉県では国際協力対象国を決定する条件として、ODAが実行されている、安全が確保されている、NGO等である程度プロジェクトが進行している、距離的に近い、などを考慮している。ベトナムでの水環境改善プロジェクトはこのようにして誕生した。

ベトナムでの国際協力事例

国際協力ニーズ調査団がJICAプロジェクト先、各地の病院、盲学校、視覚障害者支援施設などを視察し、次の三本柱を設定した。

- ①障害児の教育分野での協力
- ②環境分野での協力
- ③工業教育の相互協力

本日は②に関し千葉県国際室が千葉県環境研究センターの技術を活用してJICA水環境改善プロジェクトに協力

している事例を紹介したい。

- ・JBIC・千葉県・NGO連携事業（住民参加型生活環境改善事業 二〇〇五年度）
- ・JBIC委託事業（「水環境整備事業に係る効果発現」提案型調査 二〇〇六年度）
- ・JICA草の根技術協力事業（ハノイ市水環境改善理解促進事業二〇〇七～二〇一一年度）
- ・調査・分析技術の研修（ベトナム水環境技術向上プロジェクト 二〇〇四～二〇〇五年度）

- ・水環境管理計画策定等への国内支援（河川流域水環境管理調査 二〇〇八～一〇年度）
- ・日本での水環境研修（調整・協力 二〇〇九年度）

ボランティアとの連携提言

千葉県には環境（公害）問題への経験や環境モニタリング技術、水質・大気・廃棄物等の分析技術、住民啓発・指導、などの経験がある。これらはシニア海外ボランティアの任務遂行に有効に使えると思うので、千葉県国際室に問合わせてほしい。

国際協力は面白い

千葉県の環境改善研究に長い間従事してきたが、ベトナムへの国際協力という大変面白い経験をさせて頂いた。広い視野、一歩引いた問題への対応、相手と共に考える、が肝要であることを再認識し、日本での業務にも参考になった。

出前講座実施報告

浦安市国際センター



七月二十五日(日)、大久保邦衛会員が「鮭と素晴らしい一生」の演題で出前講座を行いました。約二十五名の市民が熱心に聴講されました。

袖ヶ浦市平岡公民館

袖ヶ浦市平岡公民館の今秋の市民約十五名を対象とする教養講座で、当会が三回に亘り「国際理解事始く国際援助の実際」を担当しました。



九月二十五日(土)、白鳥貞夫会員が講師を務め、派遣国のバヌアツの現況にもとづく「裕福さと幸福度」を論じました。



十月十六日(土)は小久保亮一会員夫妻が「ヨルダンにおける海外シニアボランティア経験」を

講演、職業訓練校、ヤルムーク大学での環境教育、下水処理指導などの技術移転内容と夫人の随員家族としての国際交流状況を説明しました。



十一月十三日(土)は、河田眞智子会員がネパールの体験談と「幼児教育指導」活動を豊富な写真を用いて講演し、参加者の関心を集めました。

市原市五井公民館



十一月五日(金)、寺田博義会員が「五井楽学塾・シニア海外ボランティアに挑戦して」のテーマで講演しました。タイ・チェンマイ大学を中心とした金属工学実習や教材作成、講義など活動内容を説明、約九十名の参加者に感銘を与えました。

八街市中央公民館

十二月十五日(金)、後藤優会員が、生きがい短期大学第二学年「社会の活力維持と



発展につとめ、生き甲斐ある生活を送ろう」で、ラオスでのシニア海外ボランティア体験談を中心として講演しました。

市原市立加茂公民館



二月十七日(火)、丸山弘会員が加茂公民館葵大学で「私の国際協力体験談」の講演をしました。

した。パキスタン、マレーシアで職業訓練指導員の育成に当たった経験と、各国事情を判りやすく語り、受講者は国際交流の意義と成果の楽しみに共感された様子でした。

千葉大学連携授業

一昨年、昨年に引き続き、教育学部吉田教室での連携授業に講師五名を派遣しました。

十一月九日 (九十分)

「日本政府のODAと国際協力業務」 山本茂穂 会員

十一月二十三日 (一八〇分)

「アルゼンチンで体験した大

学教育、日本との違い」

阿部清司 会員

十一月二十三日 (一八〇分)
「チュニジアでの技術移転の事例から」 酒井國彦 会員

十二月十九日 (一八〇分)

「東南アジアでの教育現場から見た生活と文化」

後藤優 会員

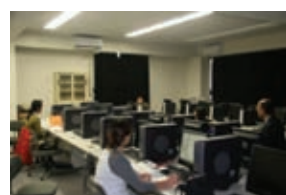
十二月十九日 (一八〇分)

「ミクロネシア連邦での観光開発の技術移転」

宮崎征士 会員

十二月二十一日 (九十分)

「指標読み取り、国際理解の整理」 山本茂穂 会員



阿部講師(右端) 授業 宮崎講師質疑応答 (後) 吉田雅巳教授

各講師は日本と途上国で生活と仕事をした経験から、世界全体の中の日本のあるべき姿についての思考を講義され、特に将来の教育者に有益な授業になったと思います。

この連携授業は来年度以降も実施される予定です。会員の皆様のさまざまな経験を活用させて頂きたいと思っておりますので、参加をお願いします。

会員 動 静

○再派遣帰国者(平成二十二年八月四日以降)

柿沼 豊 (モルディブ)

柿沼 豊 (モルディブ)

濱崎 丘 (ミクロネシア)

環境技術

須郷隆雄 (エクアドル)

経済・市場調査

小松秀世 (グアテマラ)

水資源開発

加藤哲男 (シリア)

食品分析と排水処理

鈴木 岳 (カンボジア)

都市計画

○再派遣活躍中の方々(平成二十三年三月現在派遣順)

木内良郎 (メキシコ)

鉄鋼・非鉄金属

田中忠昭 (ベトナム)

農産加工品販売促進

高木利公 (タイ)

コンピュータ技術

武藤達雄 (ペルー)

コンピュータ技術

大澤トシエ(シリア)

服飾デザイン

渡辺 章 (ミクロネシア)

保健師

寺島得司 (エルサルバドル)

上下水道

吉原久雄 (トンガ)

農業生産技術

堀 甲子男 (チュニジア)

柔道

第十回帰国報告会

千葉県JICAボランティア第十回帰国報告会が平成二十三年二月二十七日、午後一時三十分より四時三十分にかけて、アミューゼ柏一階プラザにて盛大に開催されました。



来場者は一般市民、柏市関係者、市内大学、JICA A及び当会会員など六十五名でした。

冒頭にJICA地球ひろば所長 貝原孝雄氏のご挨拶（JICA千葉デスク明石絵里子氏代読）および品川会長の挨拶の後、後藤副会長の司会で進行しました。

（要旨の文責は編集担当）

チンギスハーンと朝青龍の国、二年間のモンゴル見聞録
佐藤 聡氏 モンゴル
資機材調達 我孫子市



平成二十二年四月より二十二年三月まで、モンゴル国ウランバートル第三火力発電所に派遣された。設備容量は発電出力五百八十メガワット、温水供給能力九千九百リットル時でモンゴル全体の電力の七十割

とウランバートル市の温水の六十五割を供給するモンゴル最大の火力発電所で、莫大な資機材調達の管理運営に対する助言を行ないました。また、最近話題のレアメタル鉱山開発の現状についても言及しました。



さらに真冬は冷凍庫と同じ環境の中で自然と生活について、現地写真スライドを用いて紹介しました。

チュニジアの算数指導を通して
中山明子氏 チュニジア
初等理数科教育 佐倉市



平成二十二年九月から二十二年九月まで、チュニジアの国立教育改革研究センターにおいて、初等理数科教育に係るカリキュラム内容の検討・提案についての助言・指導と初等理数科教師と教師養成部門に対して、理科／数学の効果的指導の要請を受けました。そこで、小学校教員対象に効果的な算数指導方法を伝えるセミナーを開催すると共に、児童に役立つプリント教材（アラビア語表記）をPDFファイルで作成し、C

D・Rに保存、全国の教育委員会に配布しました。



国民参加型ボランティア活動に参加できたことを感謝しています。

チュニジアやチュニジアの人々から学んだ事は多くあります。多くの人に支えて頂いた二年間で在任中は、クーデターの片鱗も無かったので、目下ビツクリして心配しています。

ミクロネシア・音とサンゴの南の島
濱崎 丘氏 ミクロネシア
環境技術 柏市



平成二十一年十月より二十二年八月まで短期派遣シニアボランティアとして、ミクロネシア共和国コスラエ州運輸インフラ局に配属となり、環境技術・廃棄物対策に取り組みました。最終ゴミ処理場の運営指導を行なう事になり、処分場の実態を把握・分析し、それに基づく改善提案から始めました。

当初、最終処分場はプラスチックと紙の山がむき出しで、排水池からマンングローブ林

に濾過無しで流れ出ていました。そこで覆土と排水の濾過を提案し、実行されました。



オペレーターには廃棄物処理のライセンスを与える試みが効を奏し、処分場は見違える様になりました。

また、注射器など医療廃棄物の処置がなされていないので、病院内に焼却炉を設置する事を提案し、設置の目処が立ちました。

パプアニューギニアでの医薬品流通事情と生活体験
坂出直哉氏 パプアニューギニア
医薬品在庫管理 千葉市



平成二十二年九月より二十二年九月までパプアニューギニア保健省医薬品供給局に配属され、医薬品・医療用品の保管と流通の改善アドバイザーとして活動しました。

現地に入ると問題が大変多く有り、まず出入庫データの正確な入力と倉庫の整理整頓に

尽力しました。

改善実行には大変苦労しましたが、昨年NHKのゲゲの女房で有名になったこの国は、治安、言語、インフラ整備、住宅事情などの問題は有りましたが、豊かな自然に恵まれた国で、不安に思っていた対日感情は良い所でした。

赤道の国エクアドル
須郷隆雄氏 エクアドル
経済・市場調査 流山市



平成二十二年九月より平成二十二年九月まで、エクアドル、チンボラゾ県リオバンバ市チンボラゾ乳製品組合に配属されました。



経済・市場調査と農産物マーケティングの要請で、二千六百リットルの高度に有るチンボラゾ県農村部貧困削減プログラムに

参画し、その中で組合組織の強化、乳製品品質の向上、販売体制の強化という目標を持ち、調査・指導援助に当りました。

山本副会長の閉会挨拶の後、最寄りのレストランにて懇親会を催し、盛会でした。

各地フェスティバル

KIRAまつりに初参加

平成二十二年九月二十五日、午後一時から三時三十分まで、柏市立第一小学校体育館で開催された柏市国際交流協会主催のKIRAまつりに出展参加しました。



左より中村・羽田・濱崎 各会員



左より中村会員、黒田・品川 両役員

当会からは羽田 亨、中村 時夫、濱崎 丘、山野辺 恭夫 各会員と品川会長および黒田幹事が参加し、任国活動写真パネル、当会概要、SV ニュース、出前講座資料、JICA各種資料、SVおよび

JOCV募集要綱を展示説明するとともに、SV応募に ついての相談を行いました。



姉妹都市キャムデン市からの 来訪グループによる歌と踊り

当日は天候が回復し、体育館一杯の盛況でした。

従来、東葛飾地区で手賀の丘やさわやかちば県民プラザで国際交流フェスティバルが 行なわれ、参加して参りましたが、主催者側の都合で中断となっていたところ、柏市国際交流協会から当会に参加案内がありましたので、本年初めて参加したものです。

千葉県庁展望室パネル展示

当会とJICA千葉デスクが共同で、平成二十二年十月中、千葉県庁十九階の展望室壁面に当会会員によるシニア



ボランティア活動、JICA 青年海外協力隊の活動写真パネルを展示しました。

四街道市民文化祭

平成二十二年度も「文化の日」を中心に開催される四街道市民文化祭に参加しました。

オープニングセレモニー
当会の垂れ幕は左から4枚目

十月三十日（土曜日）のオープニングセレモニーで始まり、十一月三日（水曜日・文化の日）には「まなびのひろば」に当会ブースを開設しました。



当会ブース

当会の活動を紹介するパネル展示、JICAシニアボラ

ンティアの資料配布、応募相談コーナーの開設に加え、お馴染みになった国際理解クイズ、世界の茶の試飲コーナーを設けました。当会のブースはなかなかの好評でした。



「世界の茶」試飲コーナー

多くのボランティア団体が参加しており、お天気にも恵まれ沢山の来訪者がありました。影山 洵、酒井徳子両会員と品川、黒田、山本、後藤、酒井、津田、及川、大久保各役員、および上田顧問がブースの世話役として参加しました。

浦安市国際交流・協力フェスティバル

平成二十三年一月十六日、午前十時から午後五時まで浦安市ショッパーズプラザ新浦安一階で浦安市国際交流・協力フェスティバルが開催さ

れ、当会はブース出展で参加しました。また、二階では一月七日から今回の参加団体の活動写真パネル展示が行われました。

二階で展示された当会活動パネル
(中央6枚、右は青年海外協力隊の写真)

当会ブースでは活動パネル展示、JICAシニアボランティアの資料配布と応募相談、国際理解クイズなどを行いました。多数の訪問者がありました。

着席者左から
市井博子・斉藤富貴子両会員、酒井・品川・大久保 各役員

JICAシニアボランティア応募相談には約十名の相談者があり、品川、大久保 両役員が啓蒙に努め、また、二月

十二日の当会「中高年の海外シニアボランティア」講座（千葉市生涯学習センター）、同二十七日の当会帰国報告会（アミューズ柏）への出席を薦めました。

余興の国際理解クイズには五十名を超える参加者があり、用意した景品が不足するほどの盛況でした。



当会ブース全景
右側が入りに面し、風通しが良く寒い

当日は午前中は大変寒く強風が吹いたせい、出足は鈍かったのですが、夕方には多くの来場者があり中身の濃い展示が出来ました。

当会出席者は大西輝明、斉藤富貴子、市井博子、宮崎泰各会員、品川、山本、酒井、及川、大久保の各役員でした。

グローバルフェスタ

「あなたが世界のために
What can I do」

千葉大学キャンパスにおいて、平成二十三年二月六日に

（財）ちば国際コンベンションビューロー、千葉県、JICA地球ひろば、（財）日本ユニセフ協会千葉県支部の主催、国立大学法人千葉大学の後援で開催されました。

口承文芸研究家池田香代子氏による講演「世界の一人として、今私たちにできること」や千葉県の国際協力紹介コーナー、JICAコーナー、ユニセフのつどい、さらに世界の雑貨・食べ物の販売、バザーなど、盛りだくさんのフェスタでした。



国際理解クイズ挑戦者
中央奥はボランティア応募相談コーナー

当会は、けやき会館三階ホール「国際交流・協力団体の活動紹介コーナー」でJICA地球ひろばのブースに並べてブースを開設しました。

展示内容は、活動パネル、シニア海外ボランティアと青年海外協力隊応募資料などです。相談コーナーを両ブースの間で共用するように設置したので、両ブースの担当者が提携して応募相談に応じるこ

当会ブースには千葉県国際室国際交流グループ長中村耕太郎氏を始め、千葉県およびJICAの関係者が多く訪れ、盛況でした。



右より千葉県国際室 中村耕太郎氏、
当会津田・後藤 両役員

当日の参加者は、後藤、山本、横田、津田 各役員と上田顧問でした。

ボランティアパーク 2011



中央、人が覗き込んでいるのが当会ブース

恒例の千葉市生涯学習センター主催「ボランティアパーク2011」が、パネル展示二月六日（日）と十一日（金）、参加団体による講演

会二月十二日（土）で開催され、当会は両方に参加しました。

パネル展示は一階のアトリウムガーデンで行われ、当会を含む十八団体がブースを設けました。当会ブースの説明係りには山本、後藤、横田、酒井、津田の各役員が交代で出席しました。



シニア海外ボランティアについての説明をする酒井役員

当会の講演会は「中高年の海外シニアボランティア」のテーマで、午前十時～十二時に三階第一研修室で実施しました。演題と講師は次の通りでした。

「世界の一人としての私たちの役割と実行の一例」

山本茂穂 会員

「ヨルダンにおける技術移転と生活体験」

津田正臣 会員

「チュニジアにおける技術移転」

酒井國彦 会員

聴衆が十名の少し寂しい講演会でしたが、熱心に聴講さ

れ、充実した講演会でした。



講演をする津田正臣会員

講演会には上田顧問が立会いました。

ちば市国際ふれあい フェスティバル 2011

千葉市中央区の「きぼーる」にて二月二十日（日）、ちば市国際ふれあいフェスティバル運営委員会主催で千葉市、千葉市教育委員会、JICA、及び（財）自治体国際化協会後援で開催されました。



ステージ演奏で盛り上がる

ステージ、イベントで五十団体が参加、肌寒い一日に

も拘らず、主催者の発表では約二千人の来場者がありました。

当会は会場二階にブースを設け、活動パネル展示、国際理解クイズ実施、JICAボランティア応募相談コーナーの開設を行いました。



左からJICA明石国際協力推進員、横田(モンゴル民族衣装)・後藤 両役員

JICAボランティア応募相談コーナーでは約十五名の相談者があり、いろいろな質問に応じました。自身の経験、職歴に適した指導要請科目、健康問題に関する質問が目立ちました。



国際理解クイズに挑戦する小学生達

このフェスティバルでは、

毎回チャリティーを実施しており、今回はパキスタンの水害地域を支援する団体「地球市民交流基金アーシアン」に支援金が託されました。

パラグアイ音楽交流会

十月十七日(日)千葉市民会館にて、千葉市とアスンシオン市(パラグアイ)姉妹都市四十周年を記念して音楽交流会が行われ、熊谷市長と豊歳パラグアイ特命全権大使が挨拶されました。豊歳大使には当会平成二十二年度通常総会で、講演を頂いております。品川、横田、及川、(何れもパラグアイ派遣者)と酒井の各役員が出席しました。



豊歳大使(左)とパラグアイ民族衣装の熊谷千葉市長

アルパと言う小型のハーブの様な楽器を中心としてカスカダ、チョグイ鳥、コンドルは飛んでゆく、川の流れる様に等が演奏された。最後に女性歌手と共にガロベラが熱演されました。

会員 寄稿

スペイン語研修の悪夢

コスタリカ 大西輝明



環境管理・環境教育という名目で二年間、スペイン語圏の米コスタリカに

赴き、二〇一〇年一月に帰国した。任前半はエネルギー環境通信省の地域環境管理事務所、後半は国立大学付属森林サーブス研究所でそれぞれ環境関連活動を行ってきた。しかし、言葉では大いに苦労した。

二〇〇七年度からは老若の区別なく、JICAボランティアには同一の派遣前語学研修が課されたため、駒ヶ根訓練所の二ヶ月余りを死ぬ思いで過ごした。訓練所卒業後は気分的に解放され、憶えた内容は任地到着までにほとんど忘れてしまった。到着した首都サンホセは一見、インテリジェントな街なのだが、日本人が日本語しか解しないように、人々はスペイン語しか解しなかった。これは九〇年代までは当国が、他の中南米諸国と同様に強いナショナリズムにさらされたことによる。近年、英語の学校教育を始めたものの、英語教師に不足して困難を来しているのが現状である。

老若合わせて六名の同期生はサンホセ到着後、語学学校 Instituto Britanico で再び四週間の現地語学訓練に投入された。週日の午前八時から昼一時間の休憩を除いて午後三時までの長丁場、午前は教師との個人授業、午後は老若別々のグループ授業、宿題も盛大と、かなりのハードスケジュールだった。



語学学校 Instituto Britanico

私の最初の教師はアゼリアさん、最初の会話では「他の人は夫婦連れなのに、あなたは一人で来てるの」などと問われ、「連れ合いが悪妻で…」などと答えると、「では、どうして離婚しないの」などとさらに追及された。同僚の数倍の時間をかけて宿題をやれば、「あんたは聞いたり話したりはできないのに、書くのは少しはできるんだねえ」などと皮肉られた。

こうした私の劣等生ぶりはJICA事務所にも無論告知され、それ以降、「あの人は言葉ができないから」という烙印をおされ、後の二年近くを暗鬱に過ごすことになった。実際、当初の暗澹さは思い出したくもないのだが、ある同僚の奥方が「スペイン語なんか出来なくても全然ヘイキ、私なんか日本語でしゃべっても相手がわかってくれるの」と言うのを聞いて力を得、任期後



スペイン語授業のコーヒーブレイク

教室で連日、自身の不甲斐なさにくれ後悔し続けた。アゼリアさんから教師との英語の会話や、「校外を散策しつつ、カフェーなどに立ち寄ってレッスンをを行う」式の個人授業も許してもらった。訓練中の宿舎は日本の民宿並みでストレスが高じ、訓練終了間際のペーパーテストと口答発表では疲労困憊して「日ごろの成果」も出せずにおれば、「あなたの成績は五段階中の三、よくないねえ」といわれて押し出された。

半には少しは気分を持ち直した。

閑話休題、赴任目的のエネルギー環境通信省の地域環境管理事務所および国立大学付属森林サービズ研究所での技術移転は、環境管理向上方法、計画作成上の要点、情報収集方法、環境管理計画立案などについて提言と助言を行った。スペイン語習得の苦労の甲斐あってか有効な活動が出来た次第である。

イスラムの犠牲祭り

チュニジア 酒井徳子
(随伴家族)



イスラム教徒にとって犠牲祭（ライード）は重要な家庭の行事で、日本人の

正月の様な日です。数日前から町に羊の市ができ白黒赤色の羊が繋がれ、四角いクツション型の干草と共に売られます。市場の間屋にもいつもより羊が多くなり、皮をむいた一頭そのままの肉や、半身の肉、グラム売りの肉や内臓が売られています。生きた羊一頭は一週間分の食費以上と高値であり、親類や近所の仲間と共に一頭を買って分けるようです。町を歩くと羊の鳴き声がして牧歌的な日が続きます。

ます。



売り物の羊たち

カセリン地方では羊にハーブを餌として食べさせるので肉がどの地方よりも美味しいと評判で、お金持ちはそれを買います。実際にカセリン地方に行くと、囲いの中の羊を見てコレと選び、食堂で待つ間に肉にされ炭火焼きされたものを塩味で食べて見ました。肉が甘く香りがよく日本の羊もハーブを食べさせればいいのと思うほど美味しい物でした。



ムシュイを堪能

犠牲祭の日は朝から町中が煙たく、いつもの青空が少し曇って見えます。私共の大家

さん宅では二頭の羊を準備し、若い解体業者が二人やつて来ました。羊は可愛い顔で繋がれていて、業者が両手両足を持って担いでもメエメエと逆らいません。庭の端っこにタイル張りです下水穴の作られた場所があり、穴のそばに首が来るように寝かせて手際よく首から解体を始めます。

血液が十分抜けければ、次に足首から自転車の空気入れで空気を送り込みます。全身の皮の下に空気が入ってパンパンに膨らんだ羊の両足を持つて吊るし、服を脱がす様に皮をはぎます。この毛皮は塩を大量にかけて丸めておき、後日綺麗な敷物に加工します。皮を剥いだ羊の腹を開き、大きなタライを下に置いて内臓をすっきり移し、タライごと流水の下に移動して水洗いします。腸詰めに使う腸などはその場で綺麗に仕上げます。これは主婦の仕事です。解体業者の仕事は羊を大きく四つに分けて約十五分程で終了。一頭三十ディナール（約二百七十円）で解体し次の家の仕事に行きます。

ライードをする家庭には日本の正月の様に親類や友人が集まります。当日は炭焼きで食し、貧しい人や使用人には肉をプレゼントし、翌日はハーブなど野菜を大量に使って腸詰めを作ります。胃袋に肝臓とハーブと挽肉を詰めた

料理を頂きましたが、内臓の香りが口中に広がり、羊料理はこんなにも美味しいものかと感動しました。

パラオの素敵な人々

パラオ 中村時夫



我が国から三千キロ南にあるパラオ共和国は歴史的にも深い関係にありま

す。第二次大戦終了までの三十一年間、日本の委任統治領とされてきました。日本の統治が始まってからは、学校や病院、道路などの各種インフラの整備もおこなわれ、同時に日本語による学校教育が現地人に対しても行われました。ですから世界でもっとも親日感情の高い国とも言われ、今でも日本語は約八百語も使われているのです。

パラオは、約三百の島々からなり、ほとんど無人島でそのうちの十島に人々が住んでいます。全域が熱帯の気候で年平均気温は二十七℃と温暖で年間雨量は三千八百ミリ。現在、パラオ共和国の人口は二万人、最大の収入源は、南太平洋のサンゴ礁に恵まれた自然を生かしたマリンスポーツによる観光収入です。パラオには、十六校の公立小学校と高校が一枚、私立の

学校は五校で、短期大学が一枚ありますが大学はありません。私は、パラオの教育省に配属され、十年以上に改定された算数数学のカリキュラムの改定と各学校の先生方の計算力の向上を依頼されていました。カリキュラムの改定は、各小学校（一〜八年生）と高校（九〜十二年生）から選出された先生方との検討会を何度も重ね半年後に完成し、現在は改定されたカリキュラムで授業が進められています。その間に、十四校を訪問し、授業参観や研究授業で指導助言をしてきました。



先生方の学習会の指導

訪問して判明したことは、児童生徒の計算間違いが多く九九を完全に覚えていないことに気付きました。先生方の指導力や計算力不足の改善が必要だと思いました。この改善点を私のカウンターパートと教育省のチーフに報告して、九九の全国一斉テストと放課後に各学校を訪問して先

生方との計算力を高める学習会の実施が実現しました。チーフは校長会に出席、私の活動に協力するように支援してくれました。私の作った九九のテスト問題は、五年生から中2の四年生で実施、テスト結果を学年別学校別にグラフにして校長会で報告したとき、何人かの校長さんは、グラフを見ながら「コマッタナーコレ」と日本語で話していました。成績優秀者には九九の問題と「私は九九を完全に覚えています」という印刷入りの黄色のTシャツを贈りました。Tシャツを着た児童生徒はとても誇らしげな笑顔を見せていました。



「私は九九を完全に覚えています」

先生方との学習会は、最初に先生方の学習状況把握のためにテストを実施し、弱点にそった十回の学習会を実施しました。最初のテストでは平均が四十五割だったものが学習会後の同じ問題の再テストでは、七十五割平均になりました。

した。学習会で、先生方の計算ミスを指摘すると、「アタマサビテル」「オモシロクナイ」「ナオラナイ」などと日本語を使うので、大笑いしました。教育省の仲間と何度も食事会、退職者のパーティー、クリスマス会のダンス大会、無人島での新年会などパラオの人たちとの楽しい思い出が沢山出来ました。お世話になったパラオがますます発展しますように祈念しています、パラオの皆さんありがとうございます。

ネパールでの幼児教育

ネパール 河田真知子



約三十年の幼児教育を経て、五十歳初頭に退職し、第二の人生を謳歌するつもりであった私でしたが、職を辞してみても、目標を持てず、日々虚しさを感じていた折り、知人からJICAボランティアを紹介されました。

勿論JICAの事は知っておりましたが、まさか自分が参加するなど思っていませんでした。

参加する為には英語を勉強しなくてはならず、自分を奮い立たせランゲージスクールに通いました。目的を持ち生活する事で再び生きる喜びを

感じ二度目のテストに合格、ネパールへと飛び立ちました。私の活動配属先はラリトプール市地域開発部、婦人の子どもの為のセクション。ここを拠点とし四ヶ所の保育所を巡回指導し、子ども達の想像力や道徳心、情操発達を高め、保育所に従事する教師を継続指導する事が私に求められた仕事です。



保育所の先生方に囲まれて

保育所と言っても小さな小屋に貧しい子どもが集まり、無気力に過ごしている現状を見てどうしたら良いのか、何から手をつけなければならないか悩みました。

まず身近にある物を利用して、ロープで縄跳び、高跳び、電車ごっこ。大型バスターオルをブランコ代わりに。絵本、折り紙、お絵描き、ままだし、紐通し、パズル、人数、生活、動物、食べ物）を

作り続け、子ども達と遊びました。私が行くのを毎日楽しみに待ち、顔を見ると、飛びついて来ました。初めは非協力的だった教師も自分達で教材を作り、子どもと楽しむ様になりました。しかし此処まで来るのに一年半程かかり、継続し身につくような生活習慣（手洗い、排泄、整理整頓、順番）は少し目を離すと手抜きをし、指導するのは非常に困難でした。



手作りの教材で遊ぶ子供達



手洗いの習慣づけ

そのような中、ネパールの楽しみは、何と言ってもお祭りで。何時も貧しい、細やかな食事ですがお祭りの日

は特別料理。鳥、ヤギ、魚を独特の香辛料で煮込み、野菜と一緒に持て成されます。私は掛け持ちで招待され、踊れと言われると踊り、歌えと言われると歌い、豊かな家庭も、貧しい家庭も、別け隔てなく顔を出し、多くの人達に愛されました。四ヶ所の地域の人達と仲良くなる事ができその後の活動の成果と繋がりが、四ヶ所全ての給食の実施が叶いました。電気、ガス、水に乏しいネパール。男女差別のひどいネパール。カースト制のあるネパール。生きる事が困難なネパール。しかし保育所生活で楽しく遊び、多くの大人の愛情を知りその中で培われた創造力や協調性は今後、彼等が生き抜くための大きな原動力となる事と、私は信じています。そして今、私はボランティア活動から得られた多くに感謝し日々を過ごしています。

警察官に柔道を教える

モルディブ 柿沼 豊



私が今回短期派遣の活動の地となったモルディブはインド洋にある島国。インドとスリランカの南西に位置しその島数は千

百九十と報告されている。そのうち住民が居住する島はおよそ二百、他にリゾート目的のみに利用されている島が百近くある。人口は三十万人でそのうちの十万人が首都マレーに暮らし人口密度は世界一と報告されている。私はそのマレーにあるモルディブ警察で七ヶ月、そしてマレーから南に約九百kmの所にあるアッドゥー（Addu）島警察訓練学校で三ヶ月の計十ヶ月、「護身術」を基本にした柔道指導を行って参りました。

派遣国からの要請内容にはモルディブ警察の誕生が六年程前で組織として非常に若く現役警察官の護身技術も未熟で近年急増する凶悪犯罪に十分対処出来ないことなどが書かれていました。

そこで派遣前二ヶ月間は活動十ヶ月間の「指導計画」と「指導内容」のドラフトを作ると同時に自分自身の体力づくりを目的とした所属クラブでの稽古と「技」のおさらいそして生徒達（警察官）に伝えるべき講道館柔道の基礎知識と実技「理論」の整理をして出発を待ちました。

現地配属先であるモルディブ警察の私への受け入れ態勢はきちんと確立しており、私の役割権限、補佐役、世話役、指導対象者とその人数、期待する指導内容も具体化されており最初に開いた関係者

会議では「柔道コース」の内容詳細、日程表、時間割、生徒数などが討議されいづれでも活動が開始できる段階にありました。これはひとえに配属先トップである総監と担当部署長のご尽力のお陰と今でも感謝致している次第です。



柔道を履修した警察官たち
前列左端が筆者

さて「柔道」ですが、モルディブに柔道の素地はほとんど無いと言っているといえよう。柔道連盟も存在しませんし私が配属先内で聞き集めた情報では、柔道着（五十着ほど）はタイから寄贈されたものの、畳代わりに使う体操用（？）マットは日本からの寄贈で、彼等が習った柔道らしき技（わざ）はタイで逮捕術研修を受けた者からの指導と聞かされました。この実情を知ってから私のやるべき事はより明確になり柔道コースの「指導内容」も充実させることが出来たような気がします。

十ヶ月間で設定した「柔道コース」は五回で履修期間は各々一ヶ月、一クラスの生徒

数は十名から二十名に限定。第一回目の「講道館護身術二一の技」以外は「柔道基本技コース」では講道館柔道の技から基本技三十ほどを選び実践と理論の指導を行いました。生徒達は二十代前半の現役の警察官ですが非常に熱心にコースに取り組み、日曜日から木曜日の五日間、朝九時からお昼をはさんで四時までの稽古をこなしてくれました。

当然、連日暑い日が続く環境です、体力的にも精神的にも消耗したでしょう。私も毎日へとへと帰宅です。コースは一ヶ月間の長丁場、モルディブ人の補佐役なくしては全てのコースの完遂は不可能であったと考えます。それゆえ各コースの修了式で最善を尽くしてくれた生徒達一人ひとりの顔を見渡すたびに涙が出てきてしまい自分勝手な解釈かも知れませんが彼等の顔が一月間の稽古で凛々しくなったようにみえました。



基本技コース終了式

最後になりますが、モルディブは私には初めての経験になるイスラム教国家です。この国で異文化を学び同時にその異文化環境の中で素晴らしい十ヶ月間を過ごす事が出来ました。

三六〇度見渡すとそこにはブルーとグリーン色の海が広がり燦爛と肌を刺すような太陽が照りつけます。海には外国からの真つ白な大きな客船、豪華なクルーザー、貨物船、島を結ぶ乗合船、そして漁師の操る小さな舟、それを見ながら海辺の大衆レストランでお茶を飲む時が私にとってモルディブに暮らす実感を味わい一番気持ち落ち着く時間でもあった気がします。JICAモルディブ事務所の皆様、モルディブ警察の皆様、多大なるご協力有難うございました。

南米の年末年始

ペルー 武藤達雄

二回目の暑い正月を迎えております。今年は私にとっていよいよ活動の締め括りの年です。健康に留意し、何等かの足跡を残し、無事日本へ帰国出来ればと思っています。

活動先は一月一杯が夏休みとなるので三十日まで学校に出る二月からのテーマの準備をしておりました。でも、三

十日は週報を書いたところで御用納めでした。十二時から長いセレモニーの後、十五時になって、やっとビールとPericoma（炭火焼きの肉）の昼食にありつけました。うまくしゃべれないスペイン語ながら、楽しい時間を過ごしました。



ペルー人先生方の食事量の多さに、あらためてびっくり

大晦日は、朝五時に起床し、NHKの紅白歌合戦の生放送です。生まれて初めて最初から最後まで完全に視聴することが出来ました。日本では、コタツに入りながら、ビールを飲みながら、年越しソバを食べながら、ウツラしながら、で、まともに見たことがなかったのです。

こちらのお正月は普段とあまり変わらず、むしろクリスマスを盛大に祝います。（そういうえば、前任国のマレーシアでもラマダン明けや旧正月が盛大でした。）

クリスマスイブに活動先の先生のお宅に招待され、初めて教会のミサとクリスマス

キャロルを聞いてきました。先生夫妻が大聖堂（カテドラル）合唱隊のメンバーで、広大な空間に響く歌声は荘厳ですばらしいものでした。

翌日はバスで三時間程のコルカ溪谷へコンドルを見に行きました。この時期は子育ての時期でなくあまり飛ばないらしいのですが、待つこと二時間で飛び始め、七、八羽を見るのが出来ました。



コルカ溪谷のコンドル

そのようなことで、正月は普通の休日と同じように朝から洗濯、ゴミ出し、部屋の掃除などをして過ごしました。

会員便り

KIRA国際理解講座出演

柏市 白鳥貞夫

KIRA（柏市国際交流協会）フレンドシップタイム秋季講座に招かれ、講師を務めてきました。今年度は十二月十八日土曜日に柏市中央公民

館で行われ、約二十名の方々の参加がありました。



報告をする白鳥講師

シニア海外ボランティアで赴任したバヌアツ共和国での生活体験にもとづき、「世界一幸福な国」バヌアツ共和国の文化と人々の暮らしを報告しました。バヌアツ人の幸福感、その文化的背景、実際の生活などについて活発な質問が次々に寄せられ、合計二時間の充実した講演会でした。

留学生との交流

我孫子市 大格 登

三井V・Netの会員として、毎週東大柏キャンパスに出かけまして留学生との一対一交流をして居ります。平成二十二年三月までは中国からの男子留学生（院生）でしたが、修士号を取って帰国し、国立開発銀行に就職しました。四月からは二十九歳の女

子学生（博士課程一年）がお相手です。

十時半から昼食をはさんで午後一時まで日本語文法中級の問題集を四十〜五十分、日本の新聞記事切り抜きを材料に日中関係、米中関係、日米関係、北朝鮮と日米中の関係、中東問題（特にイスラエル・パレスチナ問題）等を話題にしまして解説をしたり、一緒に読んでいます。

割合に柔軟な考え方の学生でなかなか優秀ですので、視野の広い、日本好きの人物になって欲しいと期待しております。



国立歴史民族博物館にて

最近の日中の尖閣問題、劉曉波氏のノーベル賞受賞に関わるニュースも話題にしております。

又、この五月には各国からの二十名の留学生・研究生を佐倉の国立歴史民族博物館へ一日のバス旅行へ案内しましたが、大変好評でした。

JICA関連トピックス

シニア海外ボランティア秋募集「体験談&説明会」

十月八日（金）船橋市民文化創造館、十月十四日（木）アミューゼ柏で開催された「体験談&説明会」に当会から体験談発表者、よろず相談員を出しました。



(船橋) 中村時夫会員



(船橋) 大西輝明会員(左端)



(柏) 河田眞智子・丸島 賢 会員



(柏) 左から丸島・河田 会員

千葉県JICAボランティア家族連絡会



九月十二日（日）に千葉市生涯学習センターで開催され、当会から品川会長、寺戸康隆・丸島賢 両会員

が参加しました。

JOCA新春交歓会

一月二十九日（土曜日）夕方、JICA地球ひろばでJOCA新春交歓会が開かれました。約五十カ国の代表、国會議員、外務省関係者などの来賓臨席の下、青年海外協力隊出身者が集い、交流を深めました。協力隊OB・OGは約百八十名、シニアボランティア約十名が参加しました。当会より後藤副会長が出席しました。

「千葉県海外青年協力隊を育てる会」設立記念国際協力フォーラム

「千葉県海外青年協力隊を育てる会」は昨年六月に発足しましたが、同会、千葉県経営者協会、協力隊を育てる会の共催で二月十日、千葉県経営者協会会議室で設立記念フォーラムが開催されました。



(株)住友化学 伊藤高明氏による記念講演「アフリカでマラリアと戦う蚊帳」、JICA青年

海外協力隊事務局長伊藤隆文氏の講演「顔の見える国際協力を推進するJICAボランティア」、帰国隊員報告があり盛会でした。山本副会長と酒井幹事が出席しました。

前列左端および右端

武田 鈴恵 SV いすみ市・日本語教師・ペルー
 小金丸 梅夫 SV 千葉市・果樹栽培・ボリビア

後列左より

福島 和貴 SV 四街道市・LC分析・アルゼンチン
 友野 琢而 SV 柏市・輸出振興・ドミニカ共和国
 久保 治夫 SV 柏市・労働安全衛生・ブータン
 田畑 成章 SV 柏市・経営管理・パラグアイ
 門間 通 SV 成田市・選手育成指導法・コロンビア
 小川 進 SV 松戸市・気象・タイ
 清水石 晃 SV 館山市・対日輸出振興・コスタリカ
 古川 和良 SV 船橋市・配管・ヨルダン



前列左より3人目がJICA高田課長、
 4人目が千葉県高橋部長

新SV千葉県庁表敬訪問

九月十六日（木）午後、JICA広尾センター 高田宏仁市民参加協力推進課長の引率で、シニア海外ボランティア平成二十二年度二次隊十名の方々が千葉県庁を表敬訪問、高橋 渡 総合企画部長の激励を受けられました。当会から山本、後藤 両副会長が同席しました。

また、十二月十六日（木）午後にはJICA地球ひろば堀内好夫広報センター次長の引率で、同三次隊二名が千葉県庁を表敬訪問、大竹秀幸総合企画部次長ほかの方々に挨拶をされました。当会同行者は酒井幹事でした。同四次隊七名の千葉県庁表敬訪問はこの三月中旬に行われる予定です。

左より

酒井 國彦 当会幹事
 大竹 秀幸 氏 千葉県総合企画部次長
 登内 明 SV 浦安市・生産性向上・ジャマイカ
 堀 甲子男 SV 千葉市・柔道・チュニジア
 堀内 好夫 氏 JICA地球ひろば広報センター次長
 明石 絵里子 氏 JICA千葉デスク国際協力推進員
 石井 健一 氏 千葉県国際室長



平成二十二年度3次隊の表敬訪問

平成二十三年度春募集説明会のお知らせ

JICAシニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の募集説明会が左記の通り開催されます。会場ではパネリストによる体験談発表や、よろず相談があります。

■四月五日（火曜日）
 柏会場（アミューゼ柏）
 （柏駅徒歩七分）

中止になりました
 シニア海外ボランティア
 十五時三十分～十七時三十分
 青年海外協力隊
 十九時～二十一時

■四月九日（土曜日）
 幕張会場（幕張メッセ国際会議場）
 青年海外協力隊
 十四時～十六時

■四月十六日（土曜日）
 船橋会場（きゅらホール）
 船橋市民文化創造館
 （船橋駅徒歩三分）

中止になりました
 シニア海外ボランティア
 十時三十分～十二時三十分
 青年海外協力隊
 十四時～十六時

中止になりました
 四月九日幕張会場は「青年海外協力隊」のみです。各説明会への参加は予約は必要ありませんので、会場に直接お越し下さい。多くの皆さまの感謝しをお待ちしております。

CCB便り

（財）ちば国際コンベンションビューローでは千葉大学教育学部、JICA地球ひろばとの共催で昨年十一月二十七日（土曜日）に異文化理解講座「中央アジアに学ぶ多民族共存のあり方」を開催しました。日本ユーラシア協会常任理事 浜野道博氏と在日キルギス人協会代表 サマコワ・イバラツト氏より二つの講演とその後千葉大学教育学部磯崎教授司会によるパネルディスカッションがありました。



満員の会場で「コムズ」の演奏をする
 協力隊OBとキルギス留学生

講演の間にはキルギスの揚げパン「ボルソック」が振舞われ、また青年海外協力隊OBなどによる伝統楽器コムズの演奏が会場を盛り上げました。それまで中央アジアに馴染みのない方々にも日本にいて頂く貴重な機会となりました。

（明石絵里子）

編集後記

二十二年度の夏は暑さが続き、早く冬が来ないか望んだものでした。しかし冬に成ると大雪が特に東北以北にふり続け屋根が落ちたり、雪下ろしで死亡したりで大変でした。関東地方は乾燥が続きましたが、少しの雪でも降ると大騒ぎで転倒事故が多発しました。

乾燥した関東ではスギ花粉の到来が昨年の十倍にもなると予想されています。

参加イベントが年度後半に集中しSVニュースの編集に追われましたが、これも会員の皆様が元気で活動されている事で喜ばしいと思います。

（酒井國彦）

○会員数 平成二十三年
 一月十三日現在）
 九十九名

○会員異動（平成二十二年
 八月四日以降）
 入会者 三名
 退会者 無し

ご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。

千葉県JICAシニアボランティアの会
 (The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba)
 043-255-3810 (山本)
 Shigeho_yamamoto
 @yahoo.co.jp

千葉デスク国際協力推進員
 043-297-0245 (明石)
 jicadpd-desk-chibaken
 @jica.go.jp